

佳作

しいとぼくもお兄ちゃん

茨城県ひたちなか市立外野小学校四年 堀川 朝日

ぼくは、ずっとずっと弟か妹がほしくてたまりませんでした。その理由は、ぼくのまわりの友達や妹がいて、楽しそうにしていたからです。だけど、ぼくには、弟や妹がいなくて、お兄ちゃんではありませんでした。ずっとずっとうらやましくてたまりませんでした。公園に行く時も「弟や妹がほしい！」と考えていました。

二〇一九年の冬のある日、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいるということがわかりました。ぼくは信じられなくて、いろんな人に教えてしまいました。もううれしくてたまらなかったからです。

ある日の夜、ぼくは、お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんに歌を歌ってあげました。お母さんは、今でもそのことに感動しています。おなかの中にいる赤ちゃんに聞こえるくらいの声で歌いました。き

っと赤ちゃんにもとどいていたと思います。

そして、二〇二〇年七月三十一日、とうとう赤ちゃんが生まれました。病院にはお父さんとお母さんしか入れないので、お父さんお母さんいがいはおうちでるすばんをしていました。赤ちゃんが生まれたと知らされた時、みんなではくしゅをして、

「おめでどう！」

と言いました。ぼくはうれしい気持ちでいっぱいです。だってぼくはお兄ちゃんだもん！

生まれてから何日かたって、名前を決めることにしました。ぼくは、「ももか」という名前がいいとお父さんお母さんに言ってみました。ぞんねんながらきやっかされました。決まった名前は「ちなみ」。千と波で「千波」です。いい名前でしょ？

かわいい妹は、もうすぐ二さいになります。すくすく成長して、うれしい気持ちもありますが、ぎやくに成長の早さにさみしい気持ちもあります。千波には、大好きなアンパンマンの絵をプレゼントするつもりです。よろこんでくれるといいな。

これから、千波を見守って遊んであげたいと思っています。そして、自分も千波からたよりにしてもらえようなお兄ちゃんになっていきたいです。